

乍憚高うはござりますれ共役所の義にござりますれば御免を

蒙りまして是より一寸口上を申上奉りまする先もちまして勘二郎

御臈貞とござりまして残暑の御いとひもなく早

朝よりかやうに賑々敷御見物に御入下さりまする段

座本勘二郎義は申上るに及ばず若太夫傳九郎

七三郎初め惣座中へいかばかりの難有仕合に奉存

まする随ひまして申上まするは中村歌右衛門義に

ござりまする当盆狂言之義は御当地御名残

一世二代舞台勤納めを仕度由を申出しまするに

附まして勘二郎始惣座中打敷拝義

仕ましたる所勘二郎申まするは是迄御臈

貞に預る御当所の事なれば今両三年相勤め

其上の事にいたしたうよかろうやうに私へ申聞まする段右の

よしを歌右衛門に申聞ましたる所恭ふはござれ共当時多病に

罷成舞台も勤兼まする故ぜひ／＼右の銘に取斗

いとまするやう私へ頼まするに付まして止事を得ず一世二代の相勤御覽に入れ

まする迄番附に着出しましたるを十日め／＼に狂言を取替御覽に入奉りまする御臈貞

御取立之歌右衛門義にござりますれば仰合されまして賑々敷御見物に御光賀之程偏に希上奉りまする先は其為

口上すみからすみまでずいと左様に御覽下されませう